

第2回 人工生命ワークショップについて

皆川 雅章

本ワークショップは、社会情報学的側面から見た人工生命の研究方向を探るべく生物学、社会科学、情報科学から関連分野の研究者を招いて、第2回が平成7年1月28日に札幌学院大学において開催された。今回は、本来の「生命・生物」をテーマとする研究者による講演を中心に据え、情報科学的立場からは、新しい情報処理のモデルに結び付く生物学的アナロジーに関する知見を得ること、社会科学的立場からは、これまでの情報科学をベースに進展を見せてきた人工生命を一種の「社会現象」としてとらえ、社会科学的分析を行うことを課題とした。各講演ごとに活発なディスカッションが行われ、人工生命を媒介とし、今後の社会科学と情報科学との間での議論・研究の接点が模索された。

プログラム

1. 開会の挨拶 田中一（札幌学院大学社会情報学部長）

2. 講演

(I)

社会科学と人工生命の接点：ワークショップのねらい

伊藤 守（札幌学院大学社会情報学部）

情報处理的側面から見た人工生命：免疫システムの話

皆川雅章（札幌学院大学社会情報学部）

(II)

細胞行動の自立性と他律性：アメーバ様細胞の走行のメカニズムの解明

水野敬文（通産省生命研）

神経の可塑性と脳の他律性・自律性：自由行動下のラット前頭葉皮質の化学的神経伝達過程への考察

滝田正寿（通産省生命研）

波動場を用いた生命体モデル：巡回セールスマン問題へのアプローチ

横井浩史（通産省生命研）

(III)

デモンストレーション

鈴木恵二（北海道大学工学部）

浜 克己（函館工業高専）

(IV)

オートポイエーシスと生命

河本英夫（東洋大学文学部）

人工生命に対する理論哲学からのアプローチ

土屋 俊*（千葉大学文学部）

(V)

サマリートーク

阿部 潔* (東京大学社会情報研究所)

見城武秀* (東京大学社会情報研究所)

(*講演のみ)

本ワークショップは札幌学院大学社会情報学部理系教員プロジェクト費用の援助を得て行われたことを付記し、謝意を表したい。